



特定非営利活動法人

チャレンジ企業支援隊 会報

Global Management Supporting Partners (GMS)

会報V o l . 14

平成24年1月26日

発行：理事長 山崎健一郎

TEL & FAX 0742-41-7839

編集（広報担当）：副理事長 馬場英彦

TEL & FAX 0743-75-1685

E-Mail bamba@m4.kcn.ne.jp

巻頭言

（理事長 山崎健一郎）



昨年中に皆様方から賜わりましたご支援とご協力に対し厚く御礼申し上げます。昨年は、東日本大震災をはじめ甚大な自然災害の発生やギリシャの

財政危機に端を発したユーロ危機、アラブの春等、国の内外で未曾有の出来事が発生しました。

1月1日の新聞各紙の社説は、2012年は大きな転換期であり、又転換期にしなければならないと、ほぼ同様の主張をしています。（以下抜粋）

- ・東日本大震災がきっかけとなり、社会の絆や連帯が再認識され、横で繋がる意識の芽生えは社会を変える可能性をひめる。
- ・成長から成熟へ社会を切り替える必要がある。
- ・国内外ともに政治の課題解決能力が厳しく問われる年になる。
- ・世界的に危機が常態化しつつある。万策を講じなければならない。

チャレンジ企業支援隊も、平成15年12月に認証を取得して、お陰さまで満8年が過ぎました。

今年は、足元を見つめて10周年に向けての基盤を全員で確立して行きたいと考えております。より良い社会実現のため、NPO法人への期待が年々高まって来ています。その一つは「新しい公共」の担い手としての役割です。昨年「新しい公共支援事業」が公募され、我々も「NPO等に対する経営力強化支援事業」に取り組んでおります。日本の元気回復のため、少しでもお役に立てるよう尽力して参ります。

今年も引続き、ご支援とご鞭撻をお願いして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

第21回GMS経営勉強交流塾の開催

（理事 モノづくり部会長 中村 顕）

平成23年11月9日（水）京都府相楽郡精華町 関西文化学術研究都市にある日本伸縮管株式会社を

中小企業の経営者・GMS会員含め14名が訪問し勉強交流した。

同社は、伸縮管継手、各種ベローズ等を設計製造販売されており、東日本大震災及び原発放射能災害、それに次ぐ超円高等々で日本経済が下降沈滞している中で、力強く発展を続けられている。岩本泰一社長より「経営の考え方と人材育成」についての熱い思いをお話しいただいた。

＜岩本社長のお話の要点＞

- ・顧客獲得のための選択と集中（営業部員ゼロとメディア戦略）、独自の製造技術・設備開発
- ・顧客満足の前に社員満足を
- ・製品づくりの要と位置づけた技能を大切にしたい人材の育成・伝承 ①社員個々人の役割を明確にしたミッション&スキルスケジュール ②人間力・課題対応力等社員評価基準の設定等、厳しさとやさしさを織り交ぜた「鬼手仏心」の人材育成

その後の工場見学でも社長自らご案内頂き、5Sが行き届くとともに洗練された外観、差別化につながる自社開発のユニークな設備の数々、そして地域に開かれた環境保護パーク（ビオトープ）等社長の思想が具現

化された感動的な会社・工場である。また、当日は、



GMSの ビオトープ前での記念写真

阪本訓人会員が、技能人材の育成の仕組みづくりに参加になる「技能伝承マニュアル」について説明を行った。

最後のQ&A意見交換では、それぞれが自社の悩みを紹介しながら素直で活発な質疑応答が行われた。

その後の懇親交流会に岩本社長も出席され、ザックバランな雰囲気の中で互いに胸襟を開いて本音の

話ができるなど、実りの多い交流となった。

アンケートによると、今後も企業を訪問し工場見学を含む勉強交流を希望する方が多く、また人材育成及び著名経営者の経営哲学紹介といったテーマの希望もある。来年はこれを参考にしつつ更に中小企業のお役に立てるよう運営を工夫したい。また、これまで本塾に参加頂いた企業30社弱に対し、情報送付など継続したサービスができるように運営を図りたい。

マーケティング部会、23年後半の活動報告

(理事 マーケティング副部長 辻谷禎弘)

昨年の活動は、1月に第76回の部会を大阪市立デザイン教育研究所で開催し、12月の第87回まで、毎月定例部会を開いてきた。馬場部会長のリーダーシップにより毎回6～15名が参加し、様々な議題を取り上げ、和気あいあいの中、真剣な研究討議を重ねている。以下に本年後半期(9～12月)までの主な取り組み活動を紹介する。(1～8月の内容は会報vol.13に掲載済)

(1) 部会の主な議題・活動報告

前半期に取り上げた議題について、その後の経過報告や参加者の近況、日常活動などを発表し合い、



新しい取り組み方について議論を重ねてきた。

マーケティング部会の様子

10～11月には、新たに奈良県よりの受託事業と支援要請業務がスタートし、担当したメンバーが月々の活動状況を報告した。

- ・奈良県「新しい公共支援事業」受託
- ・奈良県「1施設1品づくり事業」支援

その他、議題になった主な内容は次の通りである。

- ・KIAC(関西産業活性協議会)との連携活動の報告
情報交流、人材紹介及び中小企業へ専門家派遣
- ・大阪市立デザイン教育(研)在学生の授業課題とその制作内容の発表など。
- ・森庄銘木産業、宇陀商工会デザイン企画制作報告。

(2) 企画デザインが具体化した主な案件

- ①東洋レーベル社 様

- ・携帯電話の「蒔絵シール」デザイン

- ②森庄銘木産業(株) 様

- ・営業パンフレット・磨き丸太レポート

- ③宇陀商工会 様

- ・「伊勢本街道せんべい」パッケージ

HRM部会の今後の展開

～キャリア教育へのアプローチ～

(理事 HRM部長 中尾 都史子)



今年度は、各大学へのキャリア教育のアプローチを中心に活動してきたが、残念ながら、現時点においては、結果には結びついていない。各大学とも、キャリア教育や就職支援に力を入れている状況に変化はない。就職状況が年々厳しくなる中、費用面も含めて模索されている大学が非常に多いのも、各大学へのアプローチの中で見えてきた。しかし、私たち以外にも、各学校へキャリア教育を提案している企業や団体が数多くあり、現状では、差別化を図るのが非常に難しいのが現状である。

HRM部会(定例会)の開催も、部会員が非常に多忙なため、開催できていないのが現状である。このような現状を打開するためにも、私たちHRM部会は、新しい展開とともに、HRM部会が一体となって活動できる仕組み作りが必要である。

キャリア教育(人材教育)は、学校だけでなく、中小企業をはじめとした各企業も悩みの種である。これは、永遠の課題といっても言い過ぎではない。しかし、現状では人材教育に関する問題点を解消できている企業は、まだまだ限られているのが現状ではないかと思う。

そして、HRM部会の組織をもう一度、確立し直していく必要がある。人材教育だけでなく、世の中の時代の流れが急速に変わってきている。その流れに対応できる組織でなければ、今後の、HRM部会の発展は難しいと思われる。これは、どの組織でも同じことが言えると思う。

一昔前のやり方では、一昔前では成功していても、現在においては、必ずといっていいほど失敗しているのが現状である。新しい考え方・やり方をどんどん吸収できる組織へと発展し、新たな展開を切り開いていくことが、今後のHRM部会の課題である。

新しい公共支援事業

～ソーシャルビジネス分野における中間支援～

(理事 宮地保富)

チャレンジ企業支援隊は、平成23年度から実施された「奈良県新しい公共支援事業」のソーシャルビジネス分野における中間支援事業を受託した。

この事業の目的は、ソーシャルビジネス分野を担うNPO等の活動を強化し、継続的に社会的使命(地域社会の課題解決)を果たすことができる団体の育成を目的とするものである。

9月2日・3日に橿原市と奈良市においてセミナーを開催し、支援を申請された団体の面談を行い9団体を選定した。9月20日に支援団体への集合研



修を行い、現在は各団体への個別訪問支援を行っている。

NPOの方と車座で意見交換

(12月までに各団体3回の訪問支援実施済み)

支援団体が取り組まれている事業を分類すると、介護支援 4、子育て支援 2、地域おこし 2、引きこもり青少年支援 1となる。また、支援を必要としている主な課題は、園芸福祉による介護予防の事業化、パソコンを活用した老人介護の事業化、若手介護要員の育成支援、事業別活動収支の策定支援、地域おこしの企画支援、就労研修の受け入れ団体紹介支援等である。

主担当の3人が中心となり対応しているが、団体がボランティア精神をベースに非常に真面目に取り組まれている姿に感銘を受けていると同時に、私達の支援内容が皆さんから喜ばれていることを励みに感じている。今後は、スキル支援(チラシ作成・カメラ撮影)、支援団体同士の相互交流会、事業計画策定支援等を実施する予定である。

1施設1品づくり促進事業

(副理事長 マーケティング部会長 馬場英彦)

奈良県健康福祉部が推進する『奈良県働き甲斐支援事業』として障害者の工賃倍増5カ年計画の最終年度にあたる本年度は『1施設1品づくり促進事業』にGMSの3名が1チームとなって支援活動を実施

してきた。この事業に応募した障害者施設の内3事業所が選ばれ、各々数事業所がプロジェクトに参加し、昨年9月より月に1・2回の検討会を通じて施設での新規商品開発を進めており、2月には東向き商店街の一角にある「KIZUNAカフェ」でテスト販売をし、平成24年度には商品として実際に販売することを目指している。

(1) ホエイ(乳清)入りラスクの製造販売

地元の牧場「ラッテ高松」から提供を受けたホエイ(乳清)を使用したパンをラスク専用製造。参加3施設の特徴を生かしたラスクを商品化する。贈呈用・お土産用セットなど、統一した商品名・パッケージデザインを作成する。

(2) 奈良県の世界遺産ポストカードの制作販売

奈良の世界遺産をベースに、代表的な名所・神社・仏閣・産物等をモチーフにしたポストカードを製作し、訪れた旅人を通して、奈良を広く世界の友人に紹介するツールに育て、商品化する。

(3) 生ゴミ削減による社会貢献プロジェクト

EMボカシ(有用微生物)の力で生ごみが良質な有機肥料に生まれ変わる。EMボカシが創るきれいな環境づくりに貢献する。生産した乾燥有機肥料を販売



し、事業のEMボカシを混ぜる作業風景
継続ができる仕組みを作ること。

提言：混迷の時代をどう生きるか

(理事 柏木啓一)



昨年から今年にかけて、士業専門家に対する講演の依頼が数回あった。いずれも、現在の低成長時代の中で強い不安を感じている様子がひしひしと感じられた。弁護士・会計士・税理士等いずれも、バブル崩壊後、単価半分・件数半分、さらには新規資格取得者も、弁護士・会計士とも4割が就職できない状態にある。

しかし、その理由が何かについて明確に分かっている人が少ない。歴史を振り返ると、明治維新・

第二次世界大戦という二度のパラダイムの大転換を経験し大発展を遂げてきた。

三度目のパラダイムの大転換は、明確な区切りがないため、意識されていないが、1985年頃を境に、低成長時代に入り、経済のグローバル化、高齢社会の到来と少子化が同時進行、加えて強烈な円高が進行する中で企業は生産拠点の海外シフトをせざるを得ない。

このような背景の中で、ピーク1995年のGDP 516兆円が現在約470兆円、海外生産は約120兆円となり、国内経済が縮小方向にある。

このような環境の中で、若い現役世代と我々企業OBはどう対処するかが問われている。両者に共通する対処法は以下の点に絞られると思う。

①外国語の習得、とりわけ英語でビジネスができる力をつける。

②マルチの能力を身につける。

現在は、ITの発達で情報入手が容易になった半面社会が複雑化・深化し、各領域の融合が進み、経済と法律の垣根も低くなり、文系・理系の融合も進んでいる。

昔は、経理や品管など一つの分野に通じておれば定年まで仕事ができしたが、今後は複数の分野がこなせないと生きていけないと思われる。

③伸びる市場に身を置く

i 広くグローバルな視点の中で、アジア等伸びる市場に身を置く

ii 環境、介護、IT等伸びる市場に関与する
企業OBの場合は、相手が中小企業になるので、いくつもの分野をこなせる力が必要である。

私もこの10年、中小企業の役員や顧問として数多くの企業を支援してきたが、多くの人を雇うわけにはいかないので、1人で多くの仕事をこなせる人を求めている。以上のような観点から、

①企業OBは定年前に、自分の能力の棚卸をして、何ができ何が欠けているか、何を新たに追加すべきかを考え、計画的に能力アップを図る。

②社員研修を通じて感じることは、社員に勉強の習慣をつけさせることが重要である。

ちなみに、勉強させるとは以下の4点である。

i 本を継続的に読む

ii いろんな機会に出かけ優れた人に会う

iii 文章を書く

iv 現場を見る

以上、いずれの道もハードルが高いが、スパンの長い計画をたて、粘り強く実行すれば、未来は開ける。

チャレンジ企業支援隊 平成23年活動内容

- 1月 ・会報12号発行
 - 2月 ・「GMS新春講演・交流会」開催
講演：「最近の中国事情」
講師：中国国際放送技術シンポジウム
国際委員 阪本徳男氏
・第1回地域再生大賞で、奈良県代表として「優秀賞」を受賞
 - 3月 ・「第19回GMS経営勉強交流塾」開催
テーマ「改善活動とモノづくり人材の育成」
場 所：ニッタ株式会社
・けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会「マネジメントセミナー」終了
 - 4月 ・GMSホームページのリニューアル完了
 - 5月 ・第9回総会開催（於：奈良佐保短期大学）
 - 7月 ・奈良県「新しい公共支援事業」を受託
 - 8月 ・「第20回GMS経営勉強交流塾」開催
テーマ：「良い現場は最高のセールスマン」
場 所：株式会社 山田製作所
 - 9月 ・「新しい公共」実践セミナー開催
場 所：橿原市・奈良市
・会報13号発行
 - 10月 ・奈良県「1施設1品づくり事業」支援開始
・奈良県「障害者働きがい支援事業」のフォロー支援開始
 - 11月 ・「第21回GMS経営勉強交流塾」開催
テーマ「当社の経営の考え方と人材育成」
場 所：日本伸縮管株式会社
 - 12月 ・奈良県中小企業団体中央会より「モノづくり中小企業関係の調査業務」を受託
- 平成23年 部会活動状況（毎月開催）**
- ・モノづくり部会：第48回～第59回
 - ・マーケティング部会：第76回～第87回
- （会員以外の方も参加頂けます。スケジュールはホームページをご覧ください。）